

学校名	府立北千里高等学校	名前	
-----	-----------	----	--

1 学校教育目標（めざす生徒像）

自らの個性・能力を磨き、激動する社会の変化に対応できる活力あふれる人材を育成する学校

- (1) 主体的に学ぶ姿勢、学ぶ喜びや探究心を育み、生徒の希望する進路実現を図る
- (2) 人権意識、国際感覚を身につけ、豊かな人間性を育む
- (3) 教職員が一体となって教育活動の充実を図り地域から信頼される学校づくり

2 令和4年度の校内研究の取組み

(1) 研究テーマ及び設定理由

①研究テーマ

めざす北千里生像を、全教員で考え共有し、それを基に、各教科の学年到達目標を定め、その目標達成に向けた指導と評価の一体化を行う。

②テーマ設定理由

学校経営計画には、『自らの個性・能力を磨き、激動する社会の変化に対応できる活力あふれる人材を育成する』とあるが、それが具体的にどのような人材を意味するのかという共通認識を持っていなかった。そのため、全教員で明確化・共有をし、教科ごとに学年の到達目標を定め、その目標の達成に向けた、育成すべき資質・能力を考え授業を行うことで、授業改善に取り組む。そして、その授業改善を、個人ではなく学校全体で取り組むものとしたと考えたため。

(2) 校内研究の取組みについて

①研究の基本的な考え方・全教職員で共通理解したこと（明確化した今年度のポイント）

めざす北千里生像を明確化・共有し、教科ごとに学年の到達目標を定め、その目標の達成に向けた育成すべき資質・能力を考えるとともに、授業を行う。次の表が、明確化・共有した本校の学校目標とその各学年の到達目標である。

全体研修 まとめの表

学校目標		自らの個性、能力を磨き、激動する社会の変化に対応できる活力あふれる人材
具体的に		自らの考えを持ち、自らを律し、自らの幅を広げ、個性を磨き続ける人物。 他者とのコミュニケーションや協力をを行う。その中で自身の考えや思いを表現したり伝えることができる。 膨大な情報を判断し、活用できる人物。
到達目標	3年	これまでの学びを深め、また、異なる分野の学びを結びつけ考えられるようにする。
	2年	自分の意見や物事を論理的に他者に伝える。また、他者の意見を聞くことで、新たな発見を得て、視野を広げる。
	1年	自分本位ではなく、他者との協働を意識させる。 言われたことだけをやるのではなく、自分の考えを持ち、自ら課題を発見して解決する能力を身につける。

②具体的な取組み

(ア) 教科主任会議①（6月10日）

今年度の研修の目的と予定を周知

全教員に、前頁の表の入力を事前課題として指示

(イ) 生徒アンケートの実施（6月28日）

教員が育成したい資質・能力と、生徒が身につけたい資質・能力に乖離がないよう、生徒たちに、『身につけたい資質・能力は何か？』を問うアンケートを実施
その結果を全教員への周知

(ウ) 全体研修①（8月26日）

事前課題を基に、グループワークを行い、グループ内で表をまとめる

教育C指導主事より「めざす生徒像の内容を教科目標に落とす方法」の説明

(エ) 教科主任会議②（9月15日）

全体研修会での協議内容を取りまとめ1枚に整理（完成が前頁のまとめの表）

まとめの表を基に、教科ごとの学年到達目標と、見るべき観点の作成

(オ) 授業改善への取組み（11月21日～26日）

11月の観点別施行週間（教科代表の研究授業指導案を複数名で作成し、相互授業見学を実施）に、各教科の研究授業および研究協議を実施

授業見学シートを用意、当日の参観とともにビデオ撮影をして全教員が参観する工夫

国語科・地歴公民科の研究協議と研究協議における教育C指導主事の指導助言

(カ) 全体研修②（1月27日）

各教科の取組み内容を検討・策定

③取組みの検証方法

観点別施行週間に合わせ各教科の研究授業・研究協議を実施

全体研修で、研究協議内容の発表

3 取組みの検証

(1) 校内研究の成果

①全体研修をふまえた取組みの共有化を図ったことにより、相互に授業見学、教科の垣根を越えた授業見学が活発に行われた。

②全体研修で議論をし、その内容を教科主任会議でまとめ、さらに全体にフィードバックという方法により、教職員のそれぞれの意見を尊重しながら全体の目標とまとめることができた。

③全体の目標より、教科で積極的な議論をし、教科目標を立てることができ、目標を達成

するための工夫を凝らした授業が行われた。

(2) 生徒の変容（授業改善により生徒にどのような育ちが見られるか）

学校教育自己診断の結果、「先生は教え方に様々な工夫をしている」や「先生達はお互いによく協力しあっている」という項目で大幅な向上が見られた。

(3) 教員の変容（授業改善により教員が何を学んだか・どのような感想をもったか）

全体研修・研究授業・研究協議を通して、授業改善に対する共通理解や意識改革のきっかけとなった。様々な方の助言を聞き、聞いてよかった・参考になったなどの肯定的な意見が多く聞かれた。職場でも世代交代が進んでいる中で、経験の少ない教員の大きな刺激になった。また、授業を見学しやすい雰囲気になり、積極的に授業見学する姿が見られた。

学校教育自己診断の結果、「指導内容について、教科内で話し合う機会がある」の項目で大幅な向上が見られた。

4 今後に向けて

(1) 今年度の課題

観点別施行週間中や研修の直前直後には、授業改善への意識が高くなっていたが、時間が経つにつれて、意識の低下を感じた。常に授業改善に取り組む学校の機運をどのように作っていくかが大きな課題となっている。

(2) 次年度に向けて

次年度も継続して授業改善・そのための研修を行うために、将来構想検討委員を立ち上げた。この委員で活発に議論を行い、全教員にアプローチをしていく必要がある。

令和4年度 校内研修年間実施報告書

1 令和4年度の目標（テーマ・主題）

めざす北千里生像の明確化と共有。また、指導と評価の一体化

2 実施日・内容等

月	日	校 内 研 究 の 実 際	
		研究推進委員会 等	教職員全体研修会 等
6	10 (金)	第1回 教科主任会議 ・今年度の目標や活動について ・第1回全体研修に向けた 事前課題の説明	
8	26 (金)		第1回校内全体研修 ・めざす北千里生像の内容を教科目 標に落とす方法 ・グループワーク（めざす北千里生 像の明確化と共有） ・今後の流れの説明
9	15 (木)	第2回 教科主任会議 ・全体研修のまとめ (めざす北千里生像を一本化)	
9	29 (木)		職員会議 ・教科主任会議でまとめためざす北 千里生像の説明
10			各教科 上記のめざす北千里生像を基に、各 教科の学年到達目標とそれを見取る ための観点別学習評価の検討
11			各教科 上記の観点別学習評価を実践する授 業の指導案の作成
12			各教科 研究授業と研究協議を行う
1	27 (金)		第2回全体研修 各教科で行った研究協議内容の発表
2・ 3		次年度に向けた準備 ・将来構想検討委員会で定期的に討議	

令和5年度 校内研修年間実施計画書

1 令和5年度の目標（テーマ・主題）

「めざす北千里生像」を基に、継続した授業改善を行う

2 年間予定

月	日	校 内 研 究 計 画	
		研究推進委員会 等	教職員全体研修会 等
4		第1回 将来構想検討委員会会議 ・メンバー確認 ・今年度の取組みについて	
5		第2回 将来構想検討委員会 ・第1回授業見学週間について ねらい、授業見学シートの活用など	
6	26～ 30		授業見学週間（教員相互）
7		第3回 将来構想検討委員会 ・第1回授業見学週間振り返り ・授業改善教職員研修	
7			授業改善教職員研修（全体研修）
7		第4回 将来構想検討委員会 ・授業改善教職員研修振り返り	
10		第5回 将来構想検討委員会 ・第2回授業見学週間について ねらい、授業見学シートの活用など ・研究授業準備	
11	20～ 24		授業見学週間（教員相互） 研究授業①② 研究協議①②
11		第6回 将来構想検討委員会 ・第2回授業見学週間振り返り ・研究授業振り返り	
1		第7回 将来構想検討委員会 ・1年間の活動まとめ	